

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

豊前市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県豊前市

3 地域再生計画の区域

福岡県豊前市の全域

4 地域再生計画の目標

【地域の現状及び課題】

本市の人口は、昭和30年の37,936人をピークに減少を続け、平成27年国勢調査結果では25,940人と、ピーク時の約3分の2となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和22年には19,090人となると見込まれている。また、世帯数については、昭和30年7,715世帯から平成27年10,070世帯と増加しており、核家族化が進んでいる。年齢構成をみると、65歳以上人口・割合（高齢化率）は昭和30年2,582人（6.8%）から平成27年8,964人（34.6%）と割合は約5倍に増加しているが、15歳未満人口・割合は昭和30年の12,531人（33.0%）から平成27年国勢調査結果では3,087人（11.9%）と割合は約3分の1まで激減している。

豊前市からの転入・転出の状況としては、市内に大学や専門学校がなく、進学を機に転出する15歳から19歳の人口純移動は335人の減（平成22年と平成27年国勢調査比較）となり、豊前市で育んだ大切な人材が流出している。一方、30代になると僅かではあるが、転入超過となっている。この動向は豊前市出身者が故郷に戻るUターンによる影響の可能性が高く、また、30代が子育て世帯になり得る世代であることから歓迎すべきものである。しかし、令和元年には66人の社会減、237人の自然減があり、豊前市の人口は直近の10年間でみると2,164人減少しており、人口減少に歯止めがかからない状態である。地域の担い手不足・後継者不足により地域活力が低下するほか、医療・介護等の社会保障費の増加等、様々な分野

で弊害を引き起こす人口構造となっており、早急な対策が必要である。

このようなことから、市内からの流出人口を抑制し転入を増加させるため、また、少子高齢化、人口減の流れにあっても市民の生活満足度を下げることなく、地域が活性化し、持続的に発展するため、地域の課題解決に取り組み、関係人口の創出や移住・定住へと繋げていくことが重要となる。

さらに、今般、新型コロナウイルスの蔓延により、地域の経済活動が停滞してしまう事態となっている。特に当市では県内5例目のクラスターが出てしまい、風評被害により市内の理美容室や飲食店、その他小売業等で、休業や時短営業を余儀なくされ、地域活力の著しい低下が懸念される。今後の見通しが立てにくい状況ではあるが、市内には今後も事業継続を目指している事業所が多く、豊前市としても風評被害の払拭に取り組み、積極的に支援を行う必要がある。

【基本目標】

これらの課題を解決するため、特色ある学習環境の整備、観光資源の開発や魅力発信、産業の活性化や働きやすい環境づくり、誰もが安心して暮らせるまちづくりにより、地域活性化を図り、訪れたい、住み続け、働きたいと思える魅力あるまちづくりに取り組む。また、今般の新型コロナウイルスによる地域活力の低下を防ぐため、風評被害により客足が遠のく状況を打破し、以前のように安心安全に生活できる環境を整え、また、地域の活性化を図るべく、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成に取り組む。

- (1) 基本目標1 「学びたい」場所づくり
- (2) 基本目標2 「行って楽しい」名所づくり
- (3) 基本目標3 「働きたい」名所づくり
- (4) 基本目標4 「住みたい」地域づくり

【数値目標】

5-2の①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	コミュニティスクールの 実施校数	0校	14校	基本目標1
イ	観光入込客数	118万人	130万人	基本目標2
ウ	総生産額	95,419百万円	104,960百万円	基本目標3
エ	地域づくり協議会の活動 実施団体数	3団体	11団体	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

豊前市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「学びたい」場所づくり推進事業

イ 「行って楽しい」場所づくり推進事業

ウ 「働きたい」場所づくり推進事業

エ 「住みたい」地域づくり推進事業

② 事業の内容

ア 「学びたい」場所づくり推進事業

子どもたちを家庭、学校だけでなく地域社会全体で育てるために、コミュニティスクールの導入、地域住民の参加を呼びかけ、「地域の宝」である子どもたちを鍛え、磨き上げ、将来、豊前市のために力を注いでもらえるように教育の機会の充実を図り、よりよい教育環境の整備、国の推進するICT教育・Society5.0等に対応する学力を身につけるための取組や、学力だけでなく、文化やスポーツ、郷土の伝統芸能の伝承等、豊前市の未来を託すべき子どもたちが様々な分野で希望をもって学び成長していく場所づくり。

イ 「行って楽しい」場所づくり推進事業

豊前市の魅力である海・山・里が連携したこれらの地域資源をさらに活用、PRするとともに、民間事業者による周遊ツアーやイベントの企画、新たな観光資源の創出を促進し、周辺市町、県さらに豊前市観光協会を中心とした関係団体等とも協力しながら広域の連携を図り、京築地域への誘客、交流人口・関係人口のさらなる獲得に向けた「行って楽しい」場所づ

くり推進事業。

ウ 「働きたい」場所づくり推進事業

特産物の開発、販路拡大、ブランド化等、引き続き課題解決に向けた施策を推進し、高校まで豊前市で育った若者が、一時的に都会で暮らしても、地元に戻り、就職、家庭を持ち、子どもを育てる「世代の循環」が生まれるように、雇用の創出、商店街の空き店舗の活用等、豊前市に元気と賑わいをつくり、駅周辺的环境整備・活性化を含め、魅力あるまちづくりを推進する「働きたい」場所づくり推進事業。

エ 「住みたい」地域づくり推進事業

地域と行政が一体となって官民協働での取組により安心・安全に生活できるまちづくりを推進し、増えつつある外国人労働者と地域が円滑にコミュニケーションを図るための施策、空き家対策、子どもの見守りや居場所づくり等、地域それぞれが抱える課題解決に取り組み、2030年までの長期的な開発の指針たる17の目標（SDGs）について、地域住民の理解を得ながら、地球環境も視野に入れた取組、市民一人ひとりができる取組を模索し、将来まで安心して暮らせるまちづくりを目指す「住みたい」地域づくり推進事業。

※なお、詳細は第2期豊前市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

※なお、地域再生計画「外国人生活基盤支援事業」及び地域再生計画「豊前ジビエ販売促進計画～「負」を「富」の連鎖に！」の5-2の③に位置付けられた事業を除く。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

710,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度10月、外部有識者による効果検証を行う。効果検証結果は市ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで